

SDGsに関するFM手法の思考

2020年2月21日
東京美装興業株式会社
安藤 秀徳
森下 克也





I. SDGsと日本人

東京美装興業株式会社
森下 克也



1. SDGs 地球規模の新しい取組み

SDGs : Sustainable Development Goals 持続可能な 開発 目標

SDGsとは

○ 持続可能な世界の実現のために定められた世界共通の目標

国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標である
先進国と開発途上国の両方が対象となっている
また国連やNGOなどの公的機関だけでなく、企業が策定・運用に大きく関わっている

○ その実現のために17のゴールを掲げている

SDGsでは17の目標の下に169のターゲットが併記されている

○ 達成目標は2030年です

すでに国際社会は17の目標と169のターゲットに向けて動き出している

(※1)

※1 参照: 「SDGsが問いかける経営の未来」モニター・デトロイト著 日本経済新聞出版社 2018年
「2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来の展望」落合陽一著 SBクリエイティブ社 2019年

2. SDGs 17のゴール

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



©169のターゲットの詳細については、下記URL:ホームページをご参照ください。

『総務省 持続可能な開発目標(SDGs)』

http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/kokusai/02toukatsu01_04000212.html

総務省 ホームページ

http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/kokusai/02toukatsu01_04000212.html

政策統括官(統計基準担当)

- ▶ 統計制度
- ▶ 統計法について
- ▶ 統計制度の企画・立案等
- ▶ 「政府統計の統一ロギタイプ」について
- ▶ 公的統計調査の調査票情報等の学術研究等への活用
- ▶ 統計の産音・編集
- ▶ 統計基準・統計分類
- ▶ 産業連関表
- ▶ 統計の調査環境の整備
- ▶ 国際統計・国際協力
- ▶ その他

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の継承サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2018年です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球い(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

上記関連サミットの成果文書において、SDGsの進捗を測定するための指標は「国連統計委」した。そして、国連統計委員会や国連会合(「SDG指標に関する機関間専門家グループ」IA)を経て、2017年7月の国連総会において、全244(重複を除くと232)のグローバル指標(は)からなる指標枠組みが承認されました。

政策統括官(統計基準担当)は、上記を踏まえ、関係府省の協力の下で我が国の指標の(「JAPAN SDGs Action Platform」)をご参加ください。

指標仮訳

	指標仮訳 (Excel: 624KB, PDF: 774KB) 最終更新日: 2019年8月
	Goal 1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる End poverty in all its forms everywhere
	Goal 2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable agriculture
	Goal 3 あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages
	Goal 4 全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習を促進する Ensure inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all

JAPAN SDGs Action Platform

外務省 ホームページ

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



新着情報

- 令和元年12月20日
 持続可能な開発目標(SDGs)推進本部会合(第8回)が開催され、「SDGs実施指針改定版」「SDGsアクションプラン2020」「第3回ジャパンSDGsアワード受賞団体」が決定しました。
 - ▶ SDGs実施指針改定版
 - ▶ SDGsアクションプラン2020
 - ▶ 第3回ジャパンSDGsアワード受賞団体
- 令和元年12月20日
 「SDGs実施指針」についてのパブリック・コメントで寄せられた御意見の概要とSDGs推進本部の考え方
- 令和元年11月23日
 G20外務大臣会合の開催(セッション2: SDGs)

3. SDGsの17ゴール ～ FM的視点から関係が深いゴール

17のゴールをFM的視点からみると、「**11. 住み続けられるまちづくりを**」、「**12. つくる責任 つかう責任**」
「**17. パートナーシップで目標を達成しよう**」が関係が深いキーワードを含んでいると考える。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロ
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

10. 人や国の不平等をなくそう

11. 住み続けられるまちづくりを

12. つくる責任 つかう責任

13. 気候変動に具体的な対策を

14. 海の豊かさを守ろう

15. 陸の豊かさも守ろう

16. 平和と公正をすべての人に

17. パートナーシップで目標を達成しよう



4. 現代の日本人と、昔（江戸時代以前）の日本人

現代の日本人

現代の日本はサステナブルな考え方が希薄になっているのではないだろうか。明治維新や戦後以降、工業化に流される形で自由主義に舵を切った(※2) 現代の日本では、目先の利益・生活、自分の得などを必要以上に重視した結果、スクラップ&ビルドのような考え方が基本となっているくらいがある。

※2 参照:「2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来の展望」 落合陽一 著SBクリエイティブ社(株) 2019年)



東京タワーからの風景

昔（江戸時代以前）の日本人

もともと日本では俳諧、陶磁器（焼き物）・漆器、染織品、木工品など、静かで味わい深い風情や、侘び寂びを愛でるような文化があった。そこには古いものも継続して維持していくことを基礎とする文化が存在したと考える。



龍安寺 石庭

今回、三重県伊勢市にある**伊勢神宮**にて原則20年ごとに行われている**「式年遷宮」**に着目し、**古来から日本人の中にあるサステナブルな意識とその取り組み**について考察する

5. 伊勢神宮

伊勢神宮とは三重県伊勢市にある神社。

現在、文部科学省のあつかう宗教法人「神宮」として登録されている。

正式名称は「神宮（じんぐう）」。

神宮は、あまてらすおおかみ天照大御神をお祭りする
こうたいじんぐう皇大神宮（内宮）と、とようけのおおみかみ豊受大御神をお祭りする
とようけだいじんぐう豊受大神宮（外宮）の総称である。

この二つのお宮をしょうぐう正宮と呼ぶ。

正宮にはそれぞれ別宮や末社が所属する。

したがって 正宮から末社まですべての
お宮の社は125を数える。

125のお宮お社の総称も 神宮という。 (※3)

◎ **本文**では、**他の神宮と区別**するため**通称**とされている『**伊勢神宮**』を使用する。



伊勢神宮内宮 第一鳥居



伊勢神宮内宮 神楽殿



伊勢神宮内宮 風日祈宮



伊勢神宮内宮 宇治橋

※3 参照:「伊勢神宮のこころ、式年遷宮の意味」 小堀 邦夫 著 (榊原交社 平成23年)

6. 伊勢神宮 式年遷宮

式年遷宮の制度は、今から一千三百年前に第四十代天武天皇がお定めになり、次の持統天皇の四年（690年）に皇大神宮の第一回目の遷宮が行われた。

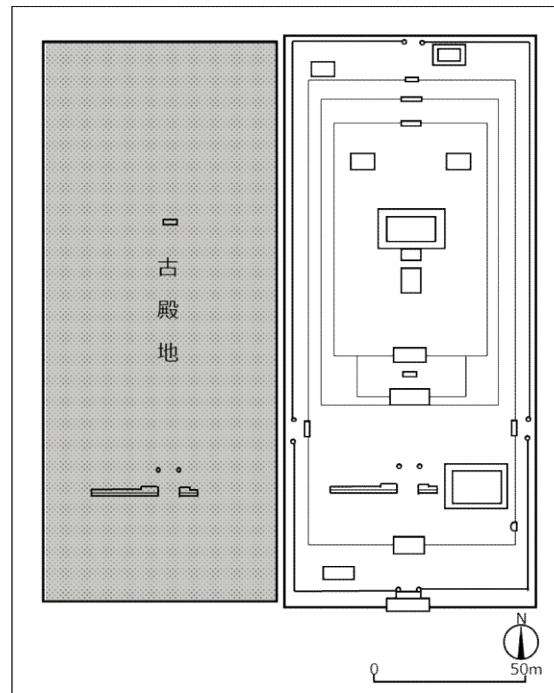
以来長い歴史の間には一時の中断（戦国時代）はあったが、二十年に一度繰り返されて、直近では平成二十五年に第六十二回の遷宮が行われた。

新しいお宮を造って大神にお遷りを願うこと。式年は定められた年を意味する。



Google Map参照

<https://www.google.co.jp/maps/place/%E4%BC%8A%E5%8B%A2%E7%A5%9E%E5%AE%AE/@34.4551048,136.7244989,235m/data=!3m1!1e3!4m5!3m4!1s0x600450ebdf9f37f3:0xf009663753f60ca718m2!3d34.4550114d136.725793?hl=ja>



内宮 配置図（※略図です）

神宮には内宮・外宮ともそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり、二十年ごとに同じ社殿を交互に新しく造り変える。

また神様の御装束神宝も新しくされる。

（※3）



伊勢神宮内宮 正宮

※4 参照 「遷宮をめぐる歴史—全六十二回の伊勢神宮式年遷宮を語る—」 茂木貞純 前田孝和 共著(株明成社 平成24年)

7. 伊勢神宮 遷宮パターン

西暦1800年以降の式年遷宮ならびに臨時仮殿遷宮 一覧表 (※4)

西暦(年)	~//~	1809	1829	1849	1869	1889	1898	1898	1900	1909	1909	1916	1922	1929	1940	1953	1993	2013	
皇大神宮(内宮)	遷宮年月日	~//~	文化六年 九月一日	文政一二年 九月二日	嘉永二年 九月二日	明治二年 九月四日	明治二三年 一〇月二日	明治三一年 五月二三日	明治三一年 六月一三日	明治三三年 一〇月二日	明治三四年 九月六日		明治四二年 一〇月二日	大正一一年 五月一七日	昭和四年 一〇月二日		昭和二八年 一〇月二日	平成五年 一〇月二日	平成二五年 一〇月二日
	遷宮の事由	~//~	式年	式年	式年	式年	式年	仮殿	仮殿	臨時	仮殿		式年	仮殿	式年		式年	式年	式年
豊受大神宮(外宮)	遷宮年月日	~//~	文化六年 九月四日	文政一二年 九月五日	嘉永二年 九月五日	明治二年 九月七日	明治二三年 一〇月五日					明治四二 一〇月五日	大正五年 一一月五日		昭和四年 一〇月五日	昭和一五年 九月二六日	昭和二八年 一〇月五日	平成五年 一〇月五日	平成二五年 一〇月五日
	遷宮の事由	~//~	式年	式年	式年	式年	式年					式年	仮殿		式年	仮殿	式年	式年	式年

仮殿遷宮: 20年毎の通常の式年遷宮を終えた後、しばらく経って例えば殿舎や心御柱に老朽化や自然災害によって破損があった場合に設定される遷宮になる。この場合、御仮殿という仮に造営した殿舎に御神体を遷してもとの殿舎を修理(改修する。そして修理が終了すれば再び、もとの殿舎にお戻しするので、これを「仮殿遷宮」と呼称する。

臨時遷宮: 自然災害などで殿舎が倒壊してしまい、修理するのが不可能と判断された場合、あらたに殿舎を新造することを「臨時遷宮」という。

※4 参照 「遷宮をめぐる歴史—全六十二回の伊勢神宮式年遷宮を語る—」 茂木貞純 前田孝和 共著(株明成社 平成24年)

8. 式年遷宮

なぜ二十年ごとなのか？

- 定説はない → 以下、推測(※4)

- 掘立柱ほったてばしらに萱かやの屋根という素木造りしらきづくりの社殿の尊厳さを保つためにふさわしい

- 二十年というのは人生の一つの区切りとして考えられる

- 技術を伝承するためにも合理的な年数である

⇒式年遷宮では、約八百の御装束神宝おんしょうぞくしんぼうを古式により新しく作り殿内に納められる
古代のままにその時代時代の最高の刀工、金工、織工など美術工芸家によって調整される
20年毎に繰り返すことによりそれらの技術が受け継がれた

◎ 建築物の朽損が理由ではない

この制度が定められたとき奈良には法隆寺が建てられていた(『上宮聖徳法王帝説』から推古天皇15年(607年)とされる)。

法隆寺は現存する世界最古の木造建築物。

当時の技術で立派に影響的な社殿はできたはず。

※4 参照 「遷宮をめぐる歴史－全六十二回の伊勢神宮式年遷宮を語る－」 茂木貞純 前田孝和 共著(榊原成社 平成24年)

9. 社殿の御用営用材に必要な檜(ヒノキ)

式年遷宮は **大量のヒノキ** が必要

御杣山の変遷 (※5)

『神宮御杣山記録』などによる



※5 参照 「せんぐう館 平成29年度企画展示 式年遷宮はつづく 一御杣山」資料

御杣山 (みそまやま)
式年遷宮において社殿の御用営用材を伐り出す「洗淨な山」のこと

御用営用材ヒノキとなるためには **200年** が必要
(※6)

※6 参照 Club Unisys + PLUS 対談
(掲載日:2015年10月20日)
<https://www.unisys.co.jp/club/about/>

10. 式年遷宮の意義

伊勢神宮と その式年遷宮が 現代までの1300年の間に もたらしたものは？

文化・伝統・技術
の継承

木材資源の確保に伴う
森林・環境保全



地域ブランド
の形成

リサイクル・リユース
の思考

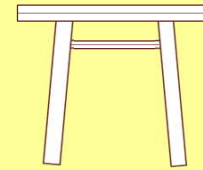
地域経済
の確立

⇒ 伊勢神宮とその式年遷宮は、**建物や施設**を**残しただけではない**。
技術・文化・地域経済・環境保存、そしてリサイクル・リユースの意識を現代までつないでいる。

11. SDGsと日本人とFM手法の視点

伊勢神宮

1300年程の間、継続して行われてきた式年遷宮



- 環境、経済、文化を継続し発展させてきた日本特有の活動である
- これらはサステナブルなライフサイクルの積み重ね
- 日本には、1300年程前から、すでにSDGsに関する活動の実績がある

1300年前の日本人は 現代に対して「未来にわたる責任」を果たしている

私ども日本人には、昔からこのような考え方があり、今現在も、持ち続けているのではないか。

そんなことを考え、現代に**継続的な維持管理を踏まえて建物施設に携っている**

ファシリティマネジャーや建築家による活動を見直してみる。

そこから**未来へのSDGsに関するFM手法の思考**を次に整理し発表する。



Ⅱ．施設の維持管理(FM)におけるSDGs達成

東京美装興業株式会社
安蘓 秀徳
(アソ ヒデリ)

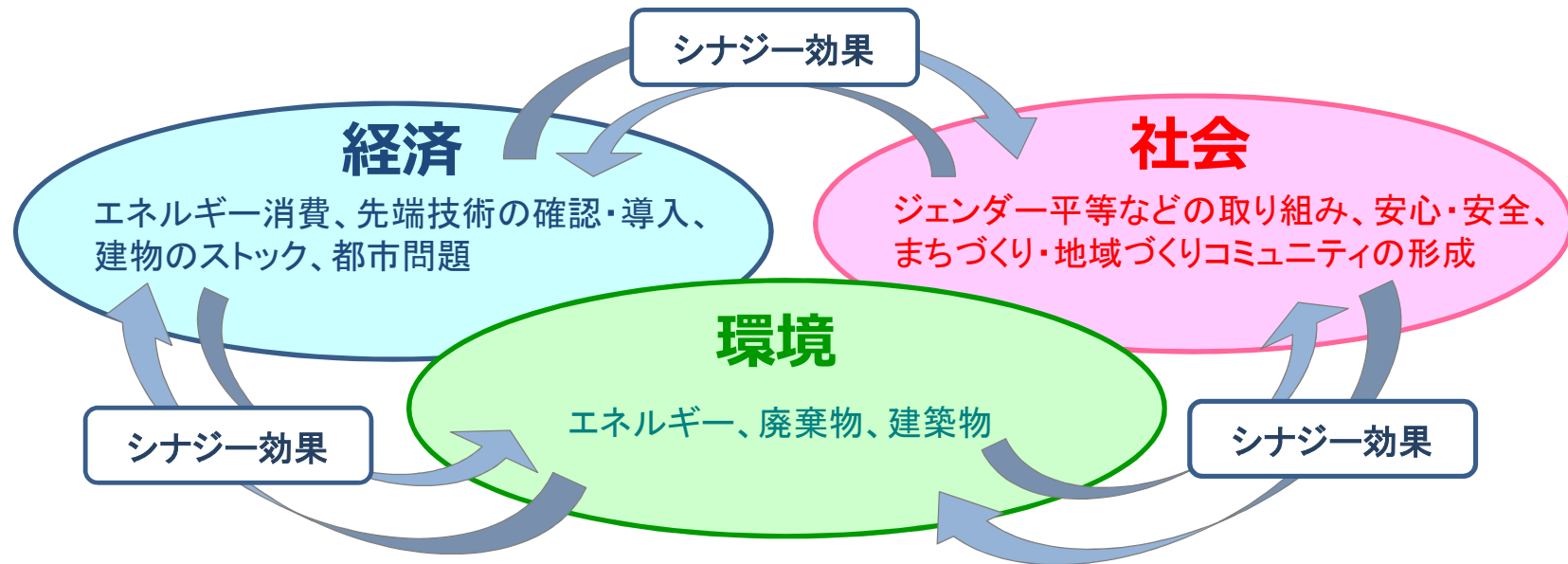
施設の維持管理（FM）におけるSDGs達成に向けた目標

施設の維持管理（FM）を核とし、施設の維持管理（FM）の技術、ノウハウを構築し、各役割者（施主、設計者、施工者等）とパートナーシップの関係を築く。

単なる保全ではなく「建築物を成長させる」視点で、各側面における相乗効果を推進する。

つまり、SDGsの目標**「12.つくる責任 つかう責任」**、**「11.住み続けられるまちづくりを」**、**「17.パートナーシップで目標を達成しよう」**等を総合的な取り組みにより、部分最適から全体最適へと、SDGsの形成に取り組みの概要を関して述べる。

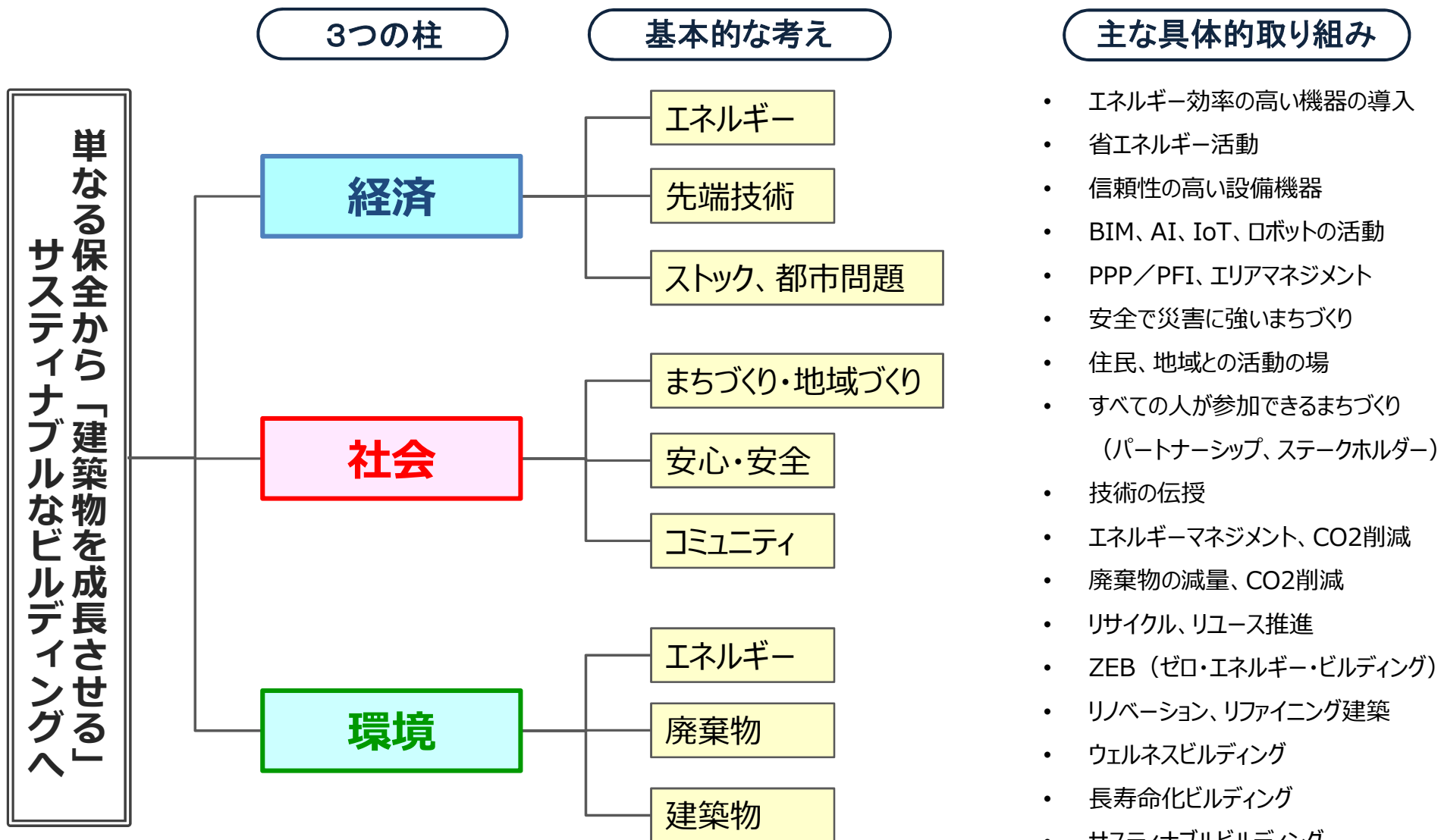
施設の維持管理 (FM)におけるSDGs達成への貢献



- ⇒ 総合的取り組みによる部分最適から全体最適へ
- ⇒ 総合的取り組みによる、トレードオフ問題や利益相反問題の緩和
- ⇒ 総合的取り組みがもたらすシナジー効果とコベネフィット

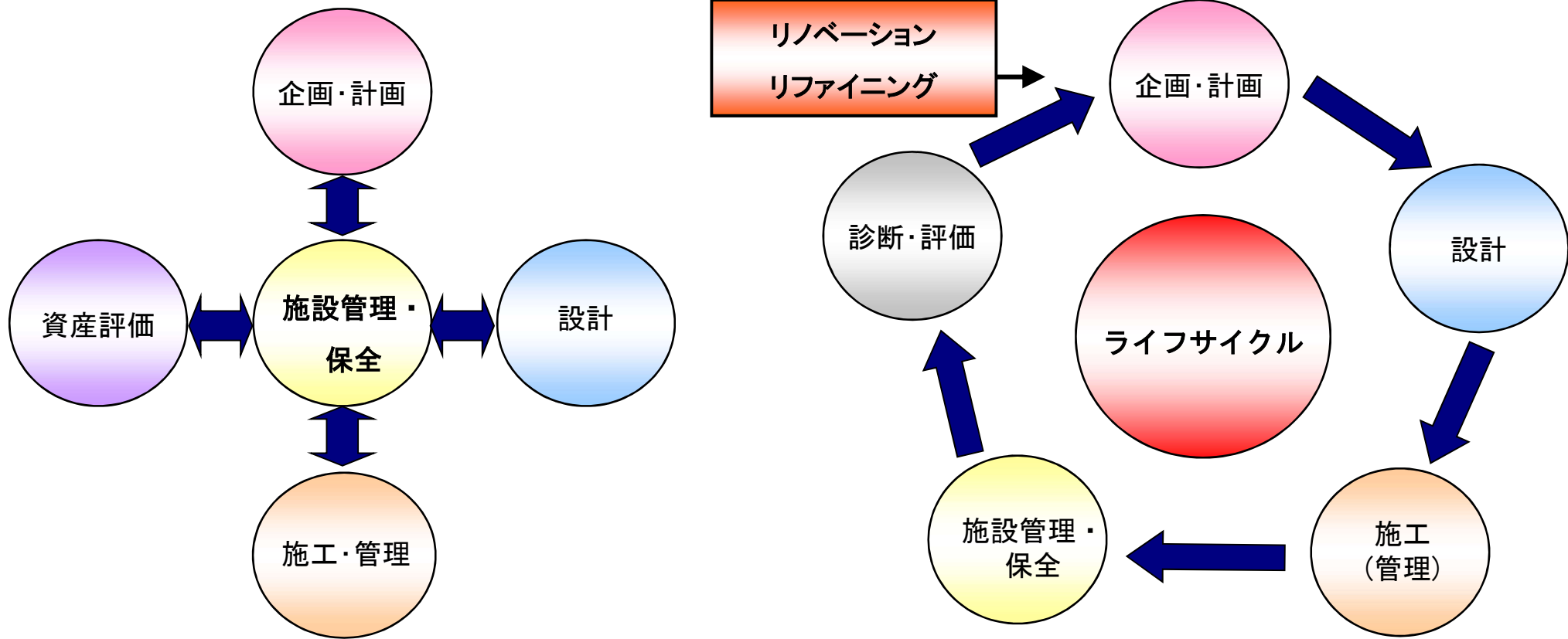
施設の維持管理 (FM)におけるSDGs達成への貢献

施設の維持管理（FM)におけるSDGs（ビジョン）達成に向けた取り組み

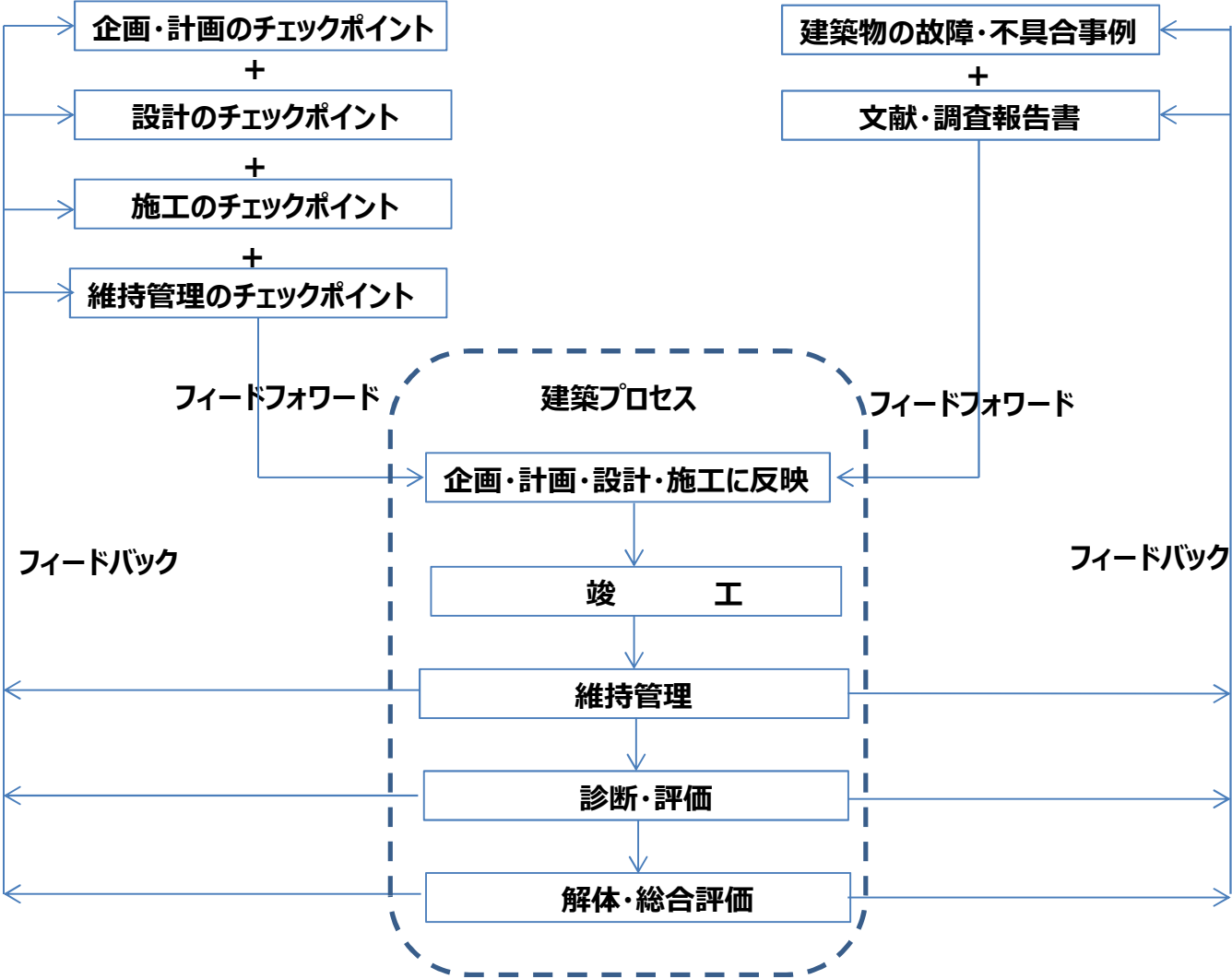


メンテナンス・建物診断・リノベーション・リファイニングを考える時代へ

資産、環境保全としての施設の適正なメンテナンスや診断、評価、リノベーション・リファイニングなどの多様なステージを通してトータルにその施設をマネジメントする事が求められている。



維持管理データのフィードバック・フィードフォワード



建築とは

「建築」とは、「目的とする環境空間を、一貫した思想の基に、適切に企画、設計、施工し」初期性能が確保された空間をつくり、その初期性能「建築の質」を維持するとともに、その空間の使い方、仕組みを社会の変化に適応させつつ、社会組織に共有された価値観を将来にわたり保持するための統一的かつ計画的に建築物を守り育て、その質を成長させるための一連の諸活動である。



社会の変化に対応

ライフサイクル全体を通して考えたとき、社会の変化に対応できる機能は重要であり、将来の「ストック&ビルド」をいう考え方から「ストック&リノベーション」という考えにシフトしてきており、「単なる老朽化対策」ではなく、資産価値を向上させる建築施設を成長させる視点が不可欠である。「長期間にわたり保有する」ことが前提であれば、様々な変化に対応できる仕組みを持たなければならないと考える。

パートナーシップで目標達成のための各役割区分（設計者・施工者・所有者・維持管理者）

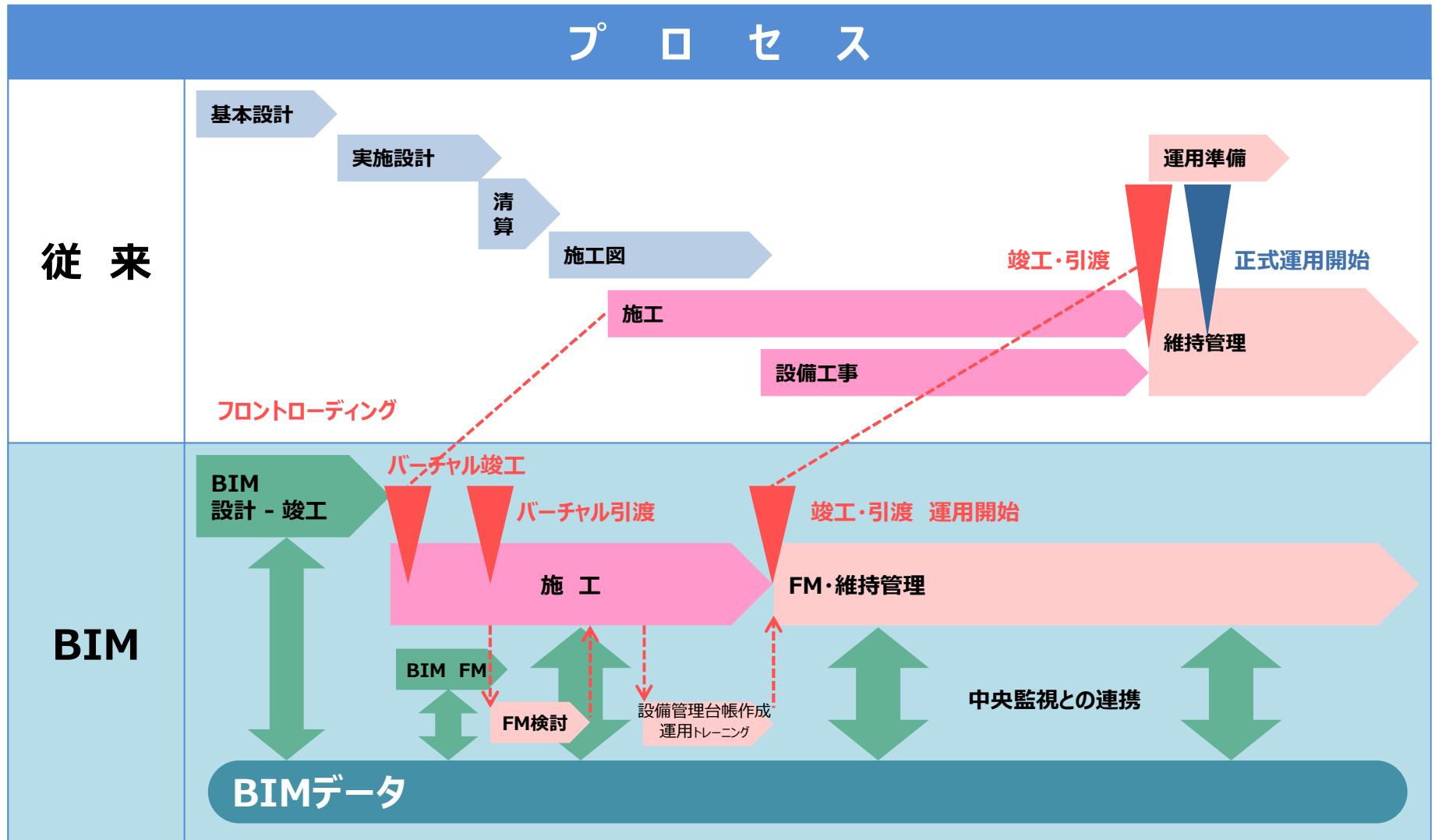
- 設計者の責務と役割は
- 施工者の責務と役割は
- 所有者の責務と役割は
- 維持管理者の責務と役割は

維持管理者の責務と役割

- 施主、所有者、設計者、施工者に維持管理の理念を説明できる。
- 維持管理設計に即して、ライフサイクルを踏まえた中長期的な計画の基に維持管理する。
- 維持管理を考慮し、建築物と設備の必要な部位に維持管理機能を高める手段を取入れる。
- 地球環境負荷低減を意識した維持管理の技術開発に努める。
- 維持管理データを分析し、企画、設計、施工へのフィードバック・フィードフォワードする。
- 維持管理の質向上に努めるため、自己評価を行い、改善提案につなげる。

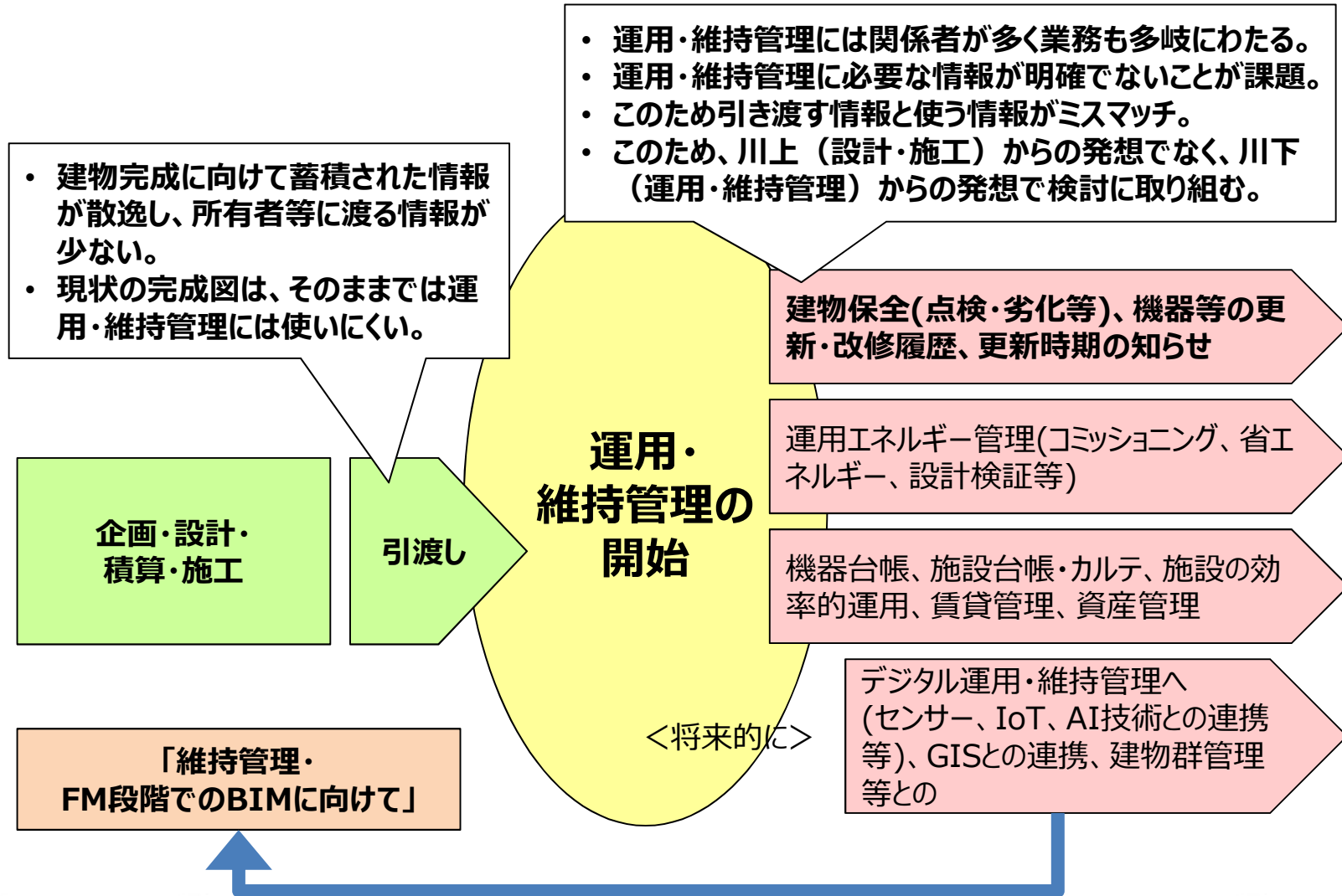
BIM 建築生産革命をFMにつなげる

大幅な工程圧縮、属性情報のデータベース化、履歴データの蓄積活用



設計・施工から運用・維持管理への情報の流れの把握

BIMから維持管理（FM）へ繋げる情報を考える



建築・設備のあってはならない 不完全性事例大全集より（抜粋）

日本環境管理学会
建築と設備の不完全性事例研究小委員会



清掃が困難な排気口

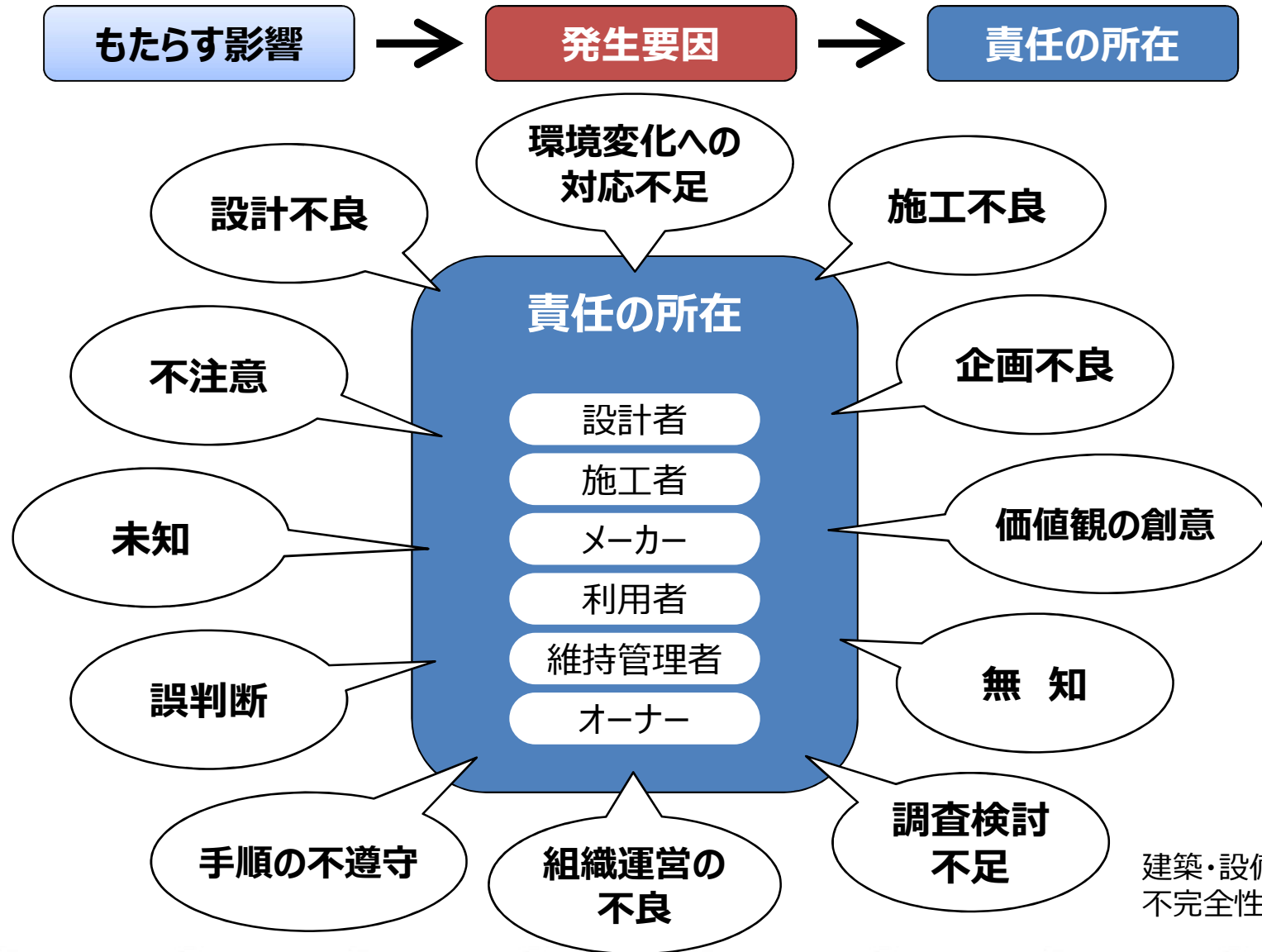
【現状の不完全事例】

発生箇所：設備-空調	構造形式：鉄筋コンクリート構造
部位：排気	影響：経済性
詳細部位：排気口廻り	発生要因：_____
材料：ステンレス	責任の所在：_____
症状：点検困難	撮影年度：2004年
所在地：埼玉県さいたま市	
竣工年：不明	

さいたま新都心にあるとあるビルの事例である。
入口上部にある排気口が高い位置にあるため清掃が大変困難である。清掃を行う際に、足場が必要になるのでコストと時間がかかってしまう。これでは定期的に清掃を行うことは難しい。また点検を行うことも困難である。
設計時に維持管理のことを配慮し、設計を行うべきである。

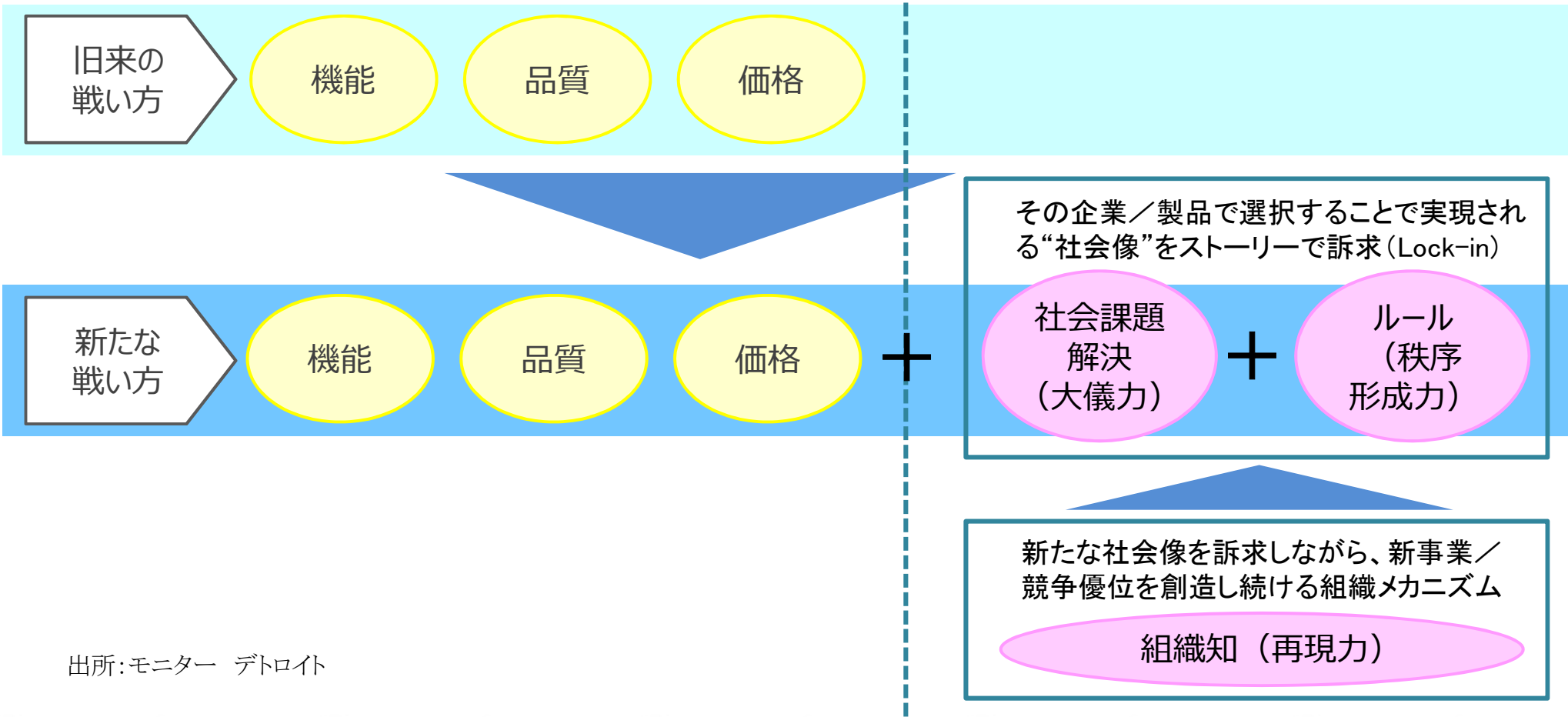
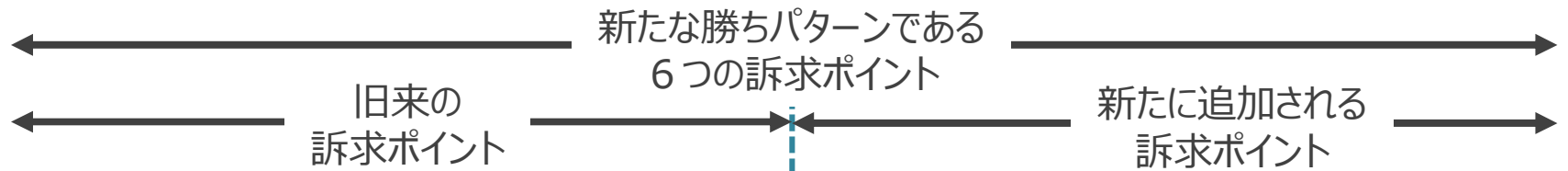


不完全性事例の発生要因と責任の所在のカテゴリ区分



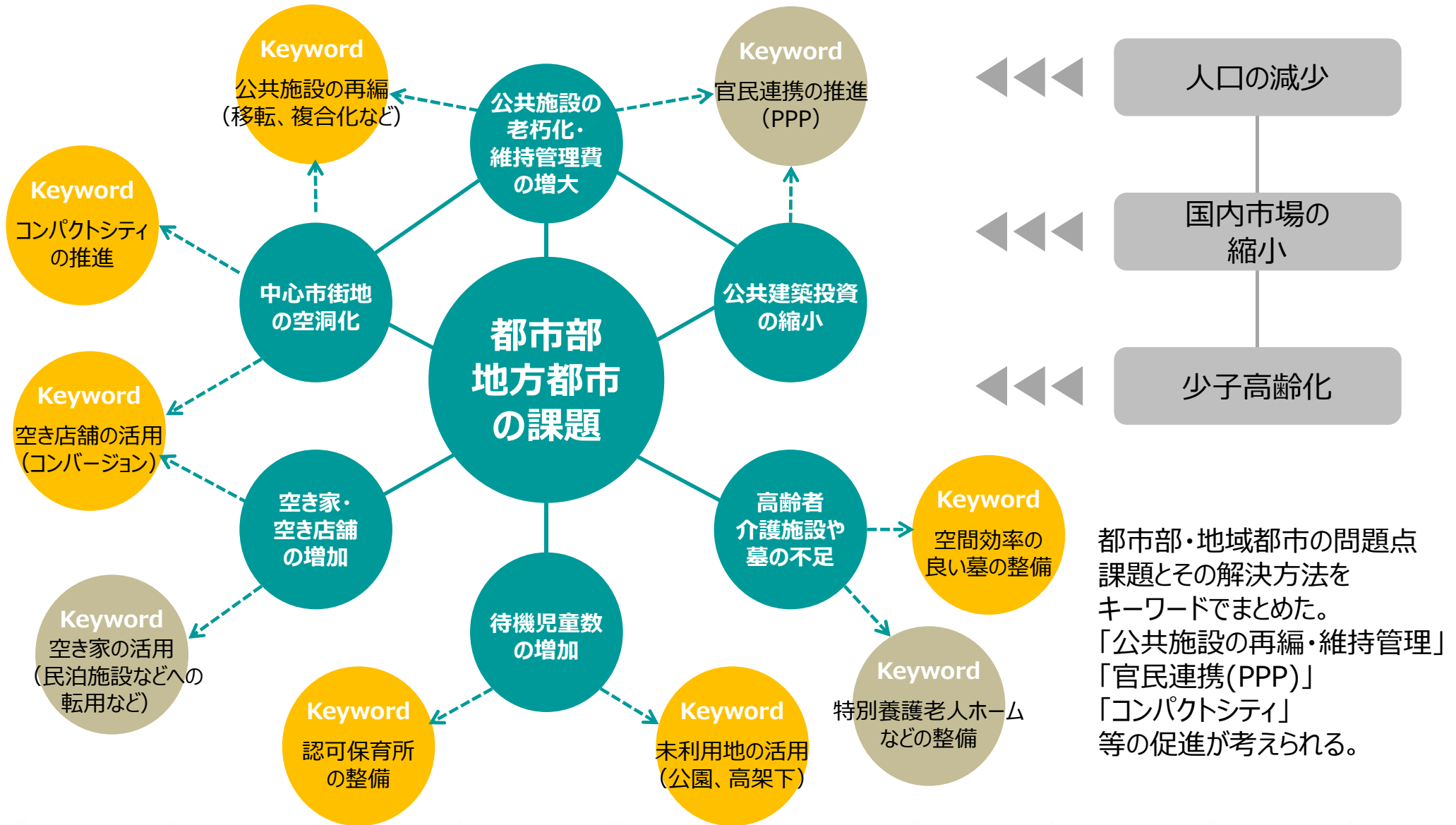
建築・設備のあつてはならない
不完全性事例大全集：引用

新たな勝ちパターン実現のために必要な訴求ポイント



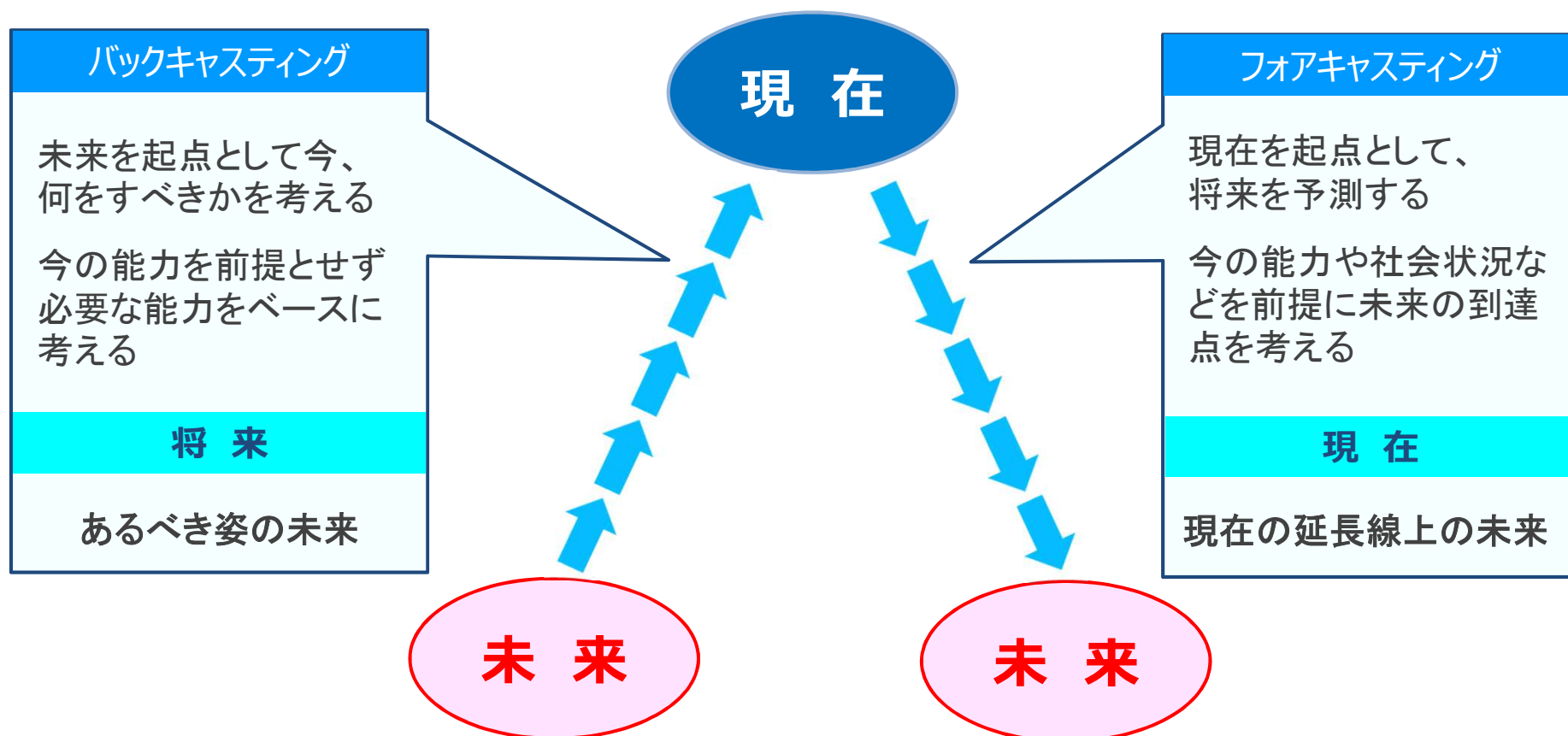
出所: モニター デトロイト

建築及び不動産開発における今後の課題を解決する手段



SDGs達成は「バックキャストिंग」で推進する

今までできることではなく、「あるべき姿に到達するために何をすべきか」を起点に、これまでとは異なった破壊的創造によって解決策を見出すことが求められている



一企業、一団体だけではSDGsのインパクトは大きくできない

企業・組織等の枠組みを超えての情報・技術や知識を持ち寄り、新技術等を検討・思考し、新商品・サービスを開発する取り組みもSDGsに連携するかたちになる。

連携によってインパクトを大きくする事例

古い施設を活用、
地域の活性化をしたい

《地方自治体》

- ・人手が足りない
- ・解決したいが問題が山積み
- ・解決案・策が無い

施設の維持管理、
活用の技術を持っている

《企業》

- ・技術はあるが知られていない
- ・社会貢献しながら利益を上げたい
- ・自社の技術を試す場がない

《地方自治体》

連 携

《企業》

- ・地方自治体の人手不足を企業が補充
- ・企業の技術で地方自治体のモ内を解決
- ・地方自治体が成功事例として発信して、企業の地名をアップ

結 果

- ・連携の成功がさらなる連携に輪を広げ、目標達成する大きな力となる
- ・企業の業績アップにつながる等、好循環が生まれる（PDCA）
- ・公共、民間を含めた連携の重要性の認識へ



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



17 パートナーシップで
目標を達成しよう

リファイニング建築とは青木工房独自の再生技術です

リファイニング建築とは建築家の青木茂により提唱された再生建築の手法です。約25年をかけて発展させた独自の技術や実績の内容は、下記の5原則に集約されます。近年になって再生建築が社会的に注目されるようになり、現在では国土交通省や文部科学省でも建築物の長寿命化が推進されております。

1. 内外観ともに新築と同等以上の仕上がり
2. 新築の60～70%の予算
3. 用途変更が可能
4. 耐震補強により現行法規及び耐震改修促進法に適合させる
5. 廃材をほとんど出さず環境にやさしい



青木 茂

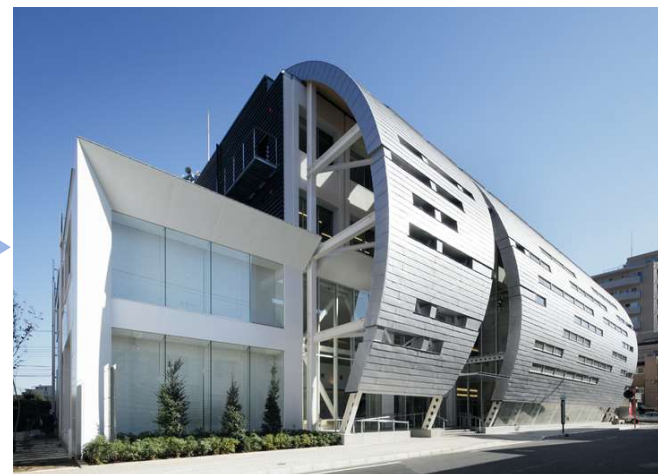
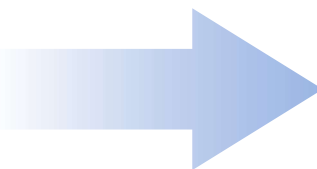
リファイニング建築【事例】

株式会社 青木茂建築工房

清瀬市民センター



BEFORE

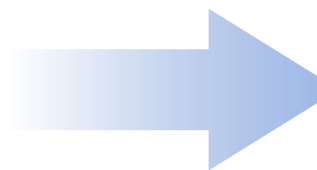


AFTER

高根ハイツ



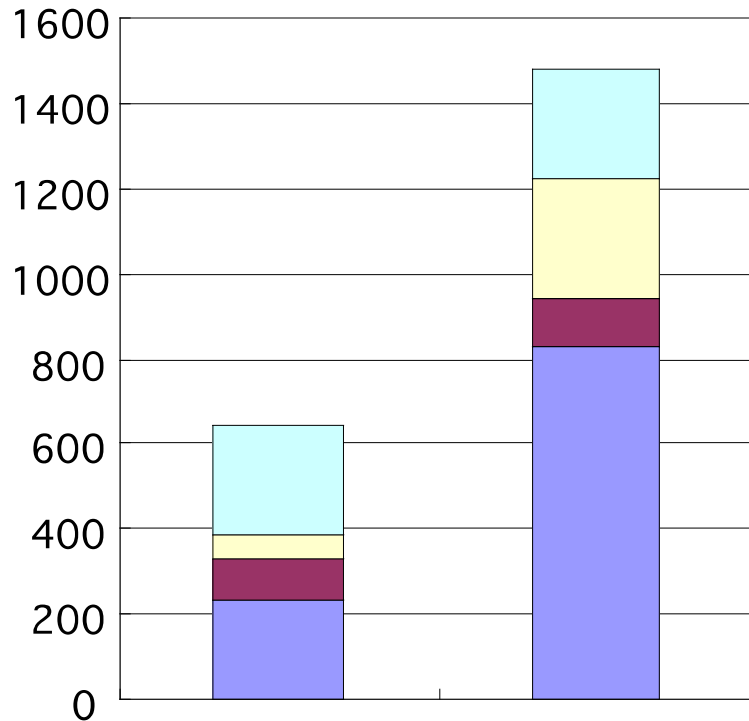
BEFORE



AFTER



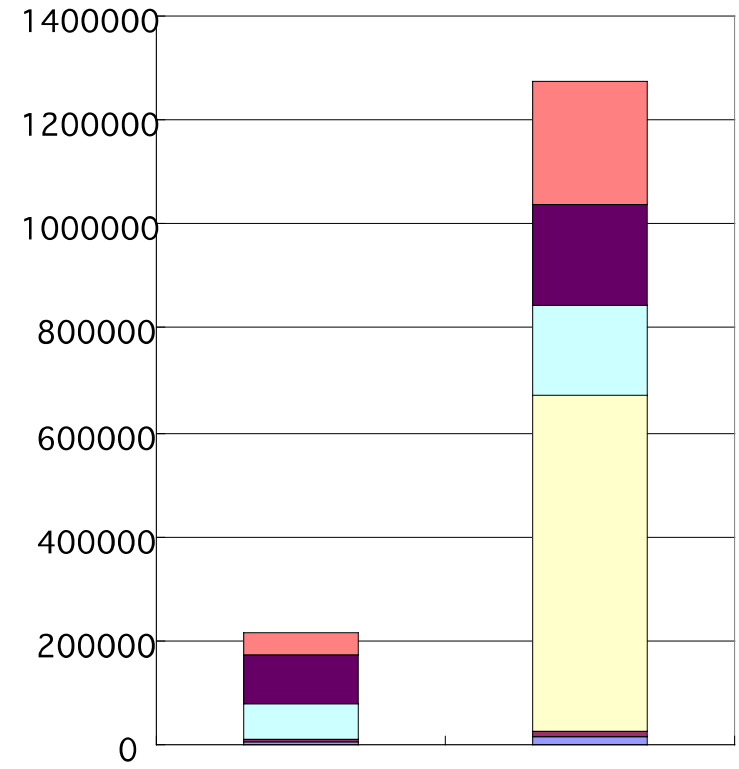
リファイニング建築と建替工事の比較
品目別の建設廃棄物排出量



リファインの場合 建替工事の場合

■ がれき類 ■ 木材 ■ 金属 ■ 混合廃棄物

リファイニング建築と建替工事との比較
工事の段階別のCO2 排出量



リファインの場合 建替工事の場合

■ 解体工事 ■ 設計管理 (新築)
■ 資材製造 (躯体) ■ 資材製造 (仕上)
■ 資材製造 (設備) ■ 建設 (新築工事)

おおよそ120年

1960年～1980年

現在

30～40年

30～40年

既存建物

リファイニング

再リファイニング

再リファイニング

家歴書の作成

- ・耐震補強の記録
- ・補修の記録
- ・美観の一新
- ・設備の更新

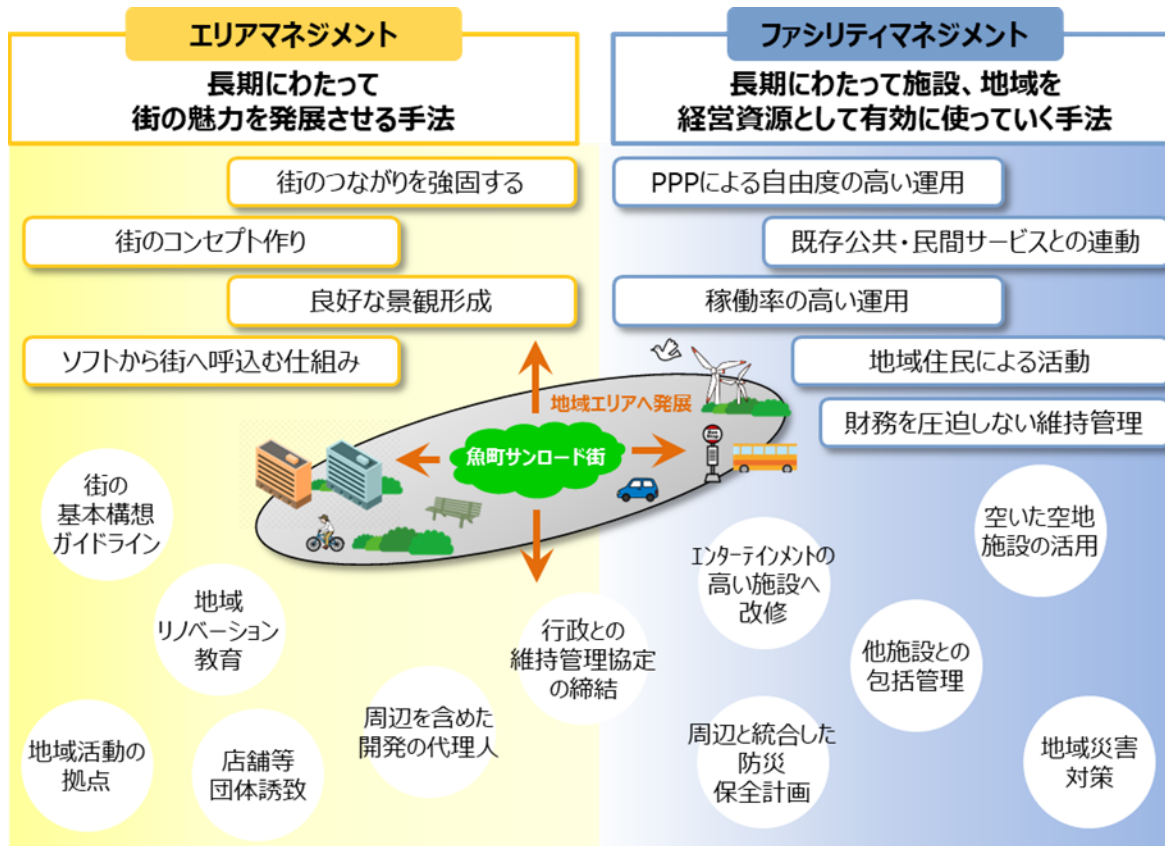
- ・耐震
- ・設備
- ・美観



第12回 JFMA賞（北九州市小倉魚町サンロード商店街協同組合）

小倉魚町サンロード商店街を核にしたエリアマネジメントとファシリティマネジメント

小倉魚町サンロード商店街の担う役割と可能性



無理な投資をしない

豊かな美しい街並みの維持

安心・安全な街暮らし

地域全体の連携

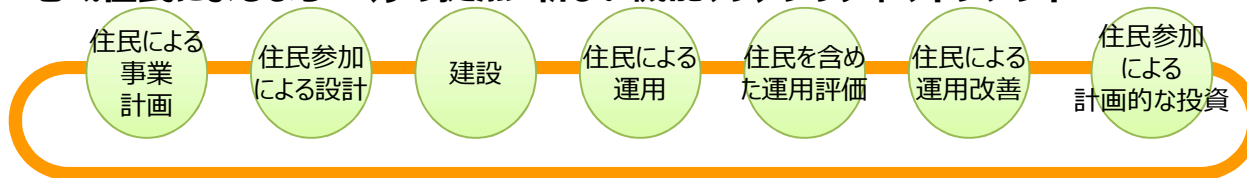
複数の活動をすることで相乗効果を発揮し、その際に、様々な手法が適用され多くの関係性が生まれる

推進する取組みがエリアマネジメントのさらなる発展へ

エリアマネジメントからファシリティマネジメントへ

さらなるまちづくりへ

地域住民によるまちづくりの拠点・新しい機能、ファシリティマネジメントへ



第3回 ジャパンSDGsアワード受賞（北九州市小倉魚町商店街振興組合）

SDGsの達成に向けて、優れた取組を行う企業・団体等を表彰するため「ジャパンSDGsアワード」を創設。（SDGs推進本部第3回会合で決定）

- 表彰の対象：SDGs達成に資する優れた国内外の取組を行っている、日本に拠点のある企業・団体（企業、NPO／NGO、地方自治体、学術機関、各種団体等）
- 表彰の内容：**最も優れた1案件を、総理大臣によるSDGs推進本部長表彰**、その他の4案件程度を、官房長官・外務大臣による副本部長表彰とする。その他、特筆すべき功績があったと認められる企業・団体等について、特別賞を付与する場合がある。

第3回ジャパンSDGsアワードの概要

過去最多378件の企業・団体が応募。全関係省庁参加のもと、「SDGs推進円卓会議」の構成員による「選考委員会」を開催。令和元年12月20日にSDGs推進本部第8回会合にあわせ、第3回「ジャパンSDGsアワード」表彰式を開催。

【SDGs推進本部長（内閣総理大臣）賞】

- 魚町商店街振興組合〔自治体〕

【SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞】

- 大阪府〔自治体〕
- 「九州力作野菜」「果物」プロジェクト共同体〔企業〕
（代表：イオン九州株式会社）

【SDGs推進副本部長（外務大臣）賞】

- 特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International
〔NPO/NGO〕
- 株式会社富士メガネ〔企業〕

【SDGsパートナーシップ賞（特別賞）】

- 日本リユースシステム株式会社〔企業〕
- 徳島県上板町立高志小学校〔教育機関〕
- 大牟田市教育委員会〔自治体〕
- 公益社団法人日本青年会議所
〔その他〕
- 株式会社大和ネクスト銀行
〔企業〕
- そらのまちほいくえん
〔その他〕



北九州市 魚町銀天街 SDGs商店街への取り組み内容



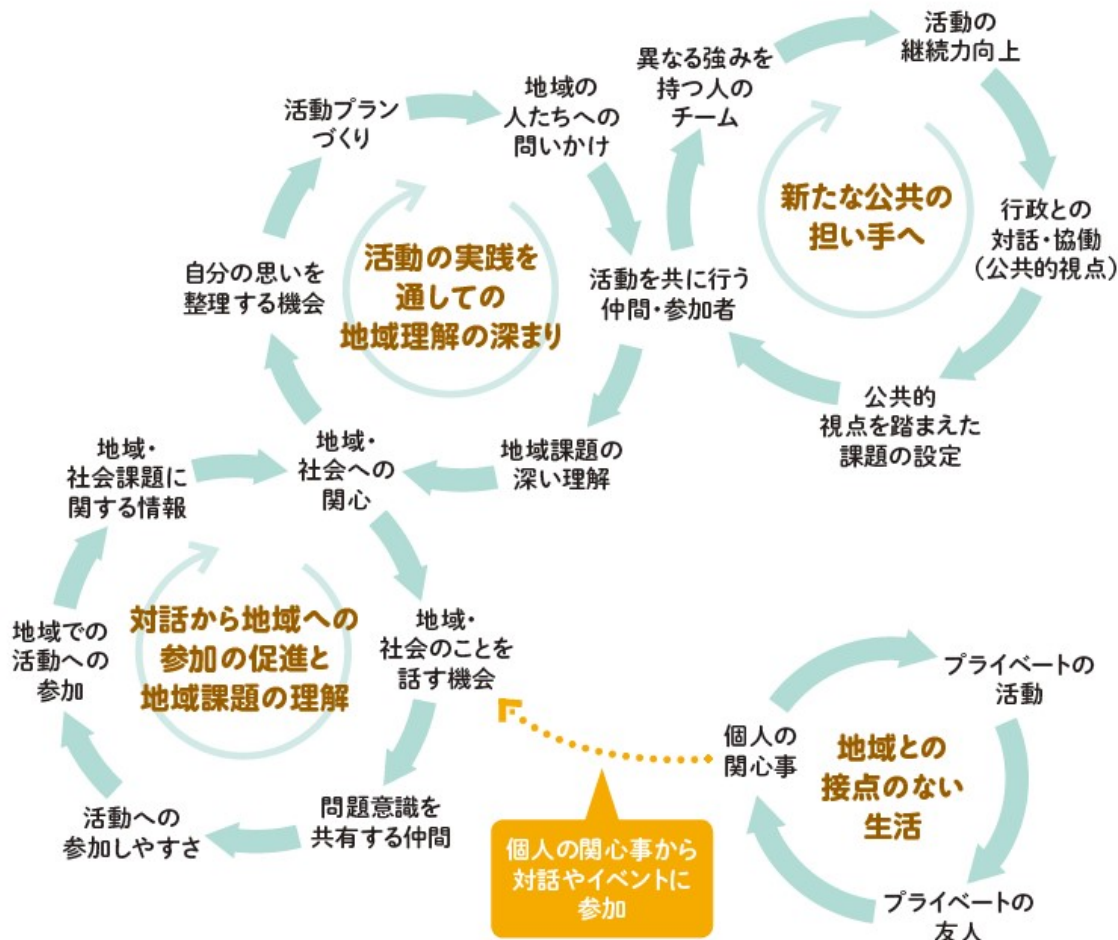
魚町銀天街SDGs商店街への取り組み
～「だれ一人取り残さない」世界を目指して～
世界で共有できる実践への模索と学習



Universality 普遍性	Inclusiveness 包摂性	Participation 参画型	Integrity 統合性	Transparency Accountability 透明性 説明責任
<p>商店街で模索し実践している活動は成功や失敗を含め世界のあらゆる場所でのロールモデルになりうる。</p> <p>【実施例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコルーフの建設 ・リノベーション街づくり ・残しま宣言 ・規格外野菜の販売 ・エシカル商品の販売 ・エコセール ・フードロス削減対策 <p>【改善検討例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙ストローの採用 	<p>誰もが利用しやすい商店街を目指してあらゆるニーズに応えられるように日々模索しています。</p> <p>【実施例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語マップ ・Wi-Fi完備 ・ユニバーサルマナー検定の実施 ・ホームレス自立支援 ・授乳室やおむつ交換スペースの設置 ・子供の一時預かりが可能な子育て施設 	<p>産学官民、あらゆるステークホルダーと連携し、イベントを実施している。また、地域を越えての連携も視野に入れている。</p> <p>【実施例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街ゼミ ・防災セミナー ・SDGsパル ・SDGsカフェ ・SDGsアートフェス ・SDGsセミナー ・SDGsチャレンジ <p>※月に1度以上のペースでイベントを企画・実施</p>	<p>SDGsの視点を学ぶ機会を作り、利益のみを追及することなく、環境や社会的包摂に、配慮できる人材育成に力をいれる。</p> <p>【実践例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネセミナー ・SDGsゲーム開催 ・SDGsセミナー参加 ・エシカルセミナー参加 ・SDGsクラブ参加 ・SDGs関連資料の共有 ・SNSを活用したコミュニティの設置 ・個店訪問による実施例の提案 	<p>イベント実施後の振り返りを行い、組合内で共有。ポスターや新聞を発行し、回覧や掲示板で情報発信を行う。SNS等も活用する。</p> <p>【実践例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種会議 ・回覧 ・掲示板 ・ホームページ ・Facebook ・Instagram ・Twitter ・視察対応 ・メディア取材等

地域住民によるSDGs達成のための活動

地域住民による「協働」はSDGs（住み続けることができるまちづくり）を達成する手段にもなり得る。
「協働」するには、まず「参加」に関する考察が重要となり「参加」の仕組みづくりが求めされる。



出所: 文京区・empublic 2016年

1. 将来のビジネスチャンスの見極め

- グローバルスケールの課題に対する新たな市場開拓の機会の創出

2. 持続可能な開発への貢献による企業価値の向上

- ESG投資への貢献によるブランド力の強化、イノベーションの促進等

3. グローバルなパートナーシップの推進と新たに展開される政策とのマッチング

4. 社会と市場の安定化

- SDGs達成のための投資が全体として市場の安定／活性化をもたらす

5. 世界の共通言語への参加

- 世界のSDGsの取組が生み出す巨大な知的資産へのアクセス
- SDGsに参加しないリスクの回避

新しい価値は自ら生むしかない

物事を発想するために必要な要素は3つ

「心」「技」「知」であると考えられる。

この掛け合せによって始めて新しい発想が生まれると考えられる。

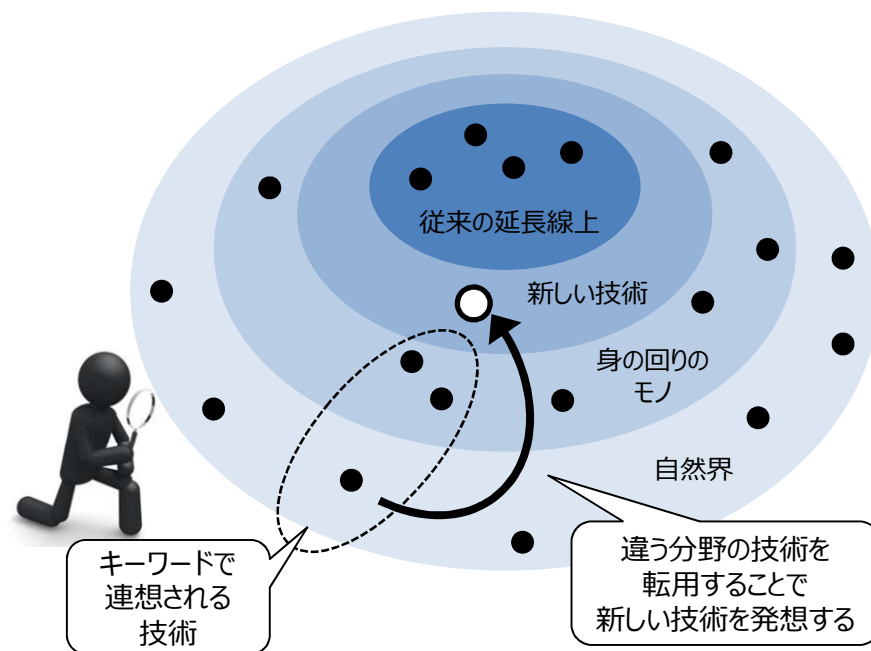
新しい発想 = 心 × 技 × 知

「心」：自分が新しい事を生もうとする思いの事。
なんとなく生み出そうとする気持ちがなく、
勝手に良い考えが浮かぶという事はない。

「技」：発想するためのアタマの使い方、プロセス
(技術、技能等)。技術、技能の経験
等により形成された思考の枠によりアイ
ディア、発想が出てくる。

「知」：新しいことを生み出すための基礎となる
知識や経験で、基となる知 識や
経験がないと生むことは出来ない。


思考の枠を超える



SGDs目標の達成へのステップ

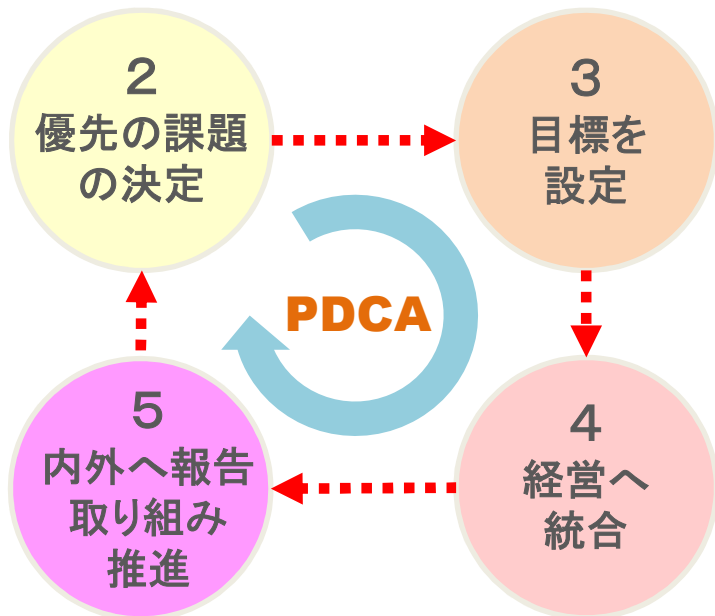
SGDs目標  つくる責任
つかう責任

 住み続けられる
まちづくりを

 パートナーシップで
目標を達成しよう

に取り組み目標達成のステップは

1. SDGsを理解する



SDGsを理解することなくして、アクションは起こせない!!

SDGsを活用するメリット

- ① 将来のビジネスのチャンスの見極め
- ② 起業の持続可能性に関わる価値の向上
- ③ ステークホルダーとの関係の強化、新たな手法の展開、拡大
- ④ 社会の市場の安定化へ
- ⑤ 共通減補目標の共有

まとめ

SDGsは直接的な利益？でもないし、法的な拘束力もない。しかし、世界の共通言語として「あるべき理想の社会」を描き、様々な取り組みが人類の幸福度増進につながるプロセスを示していると思う。

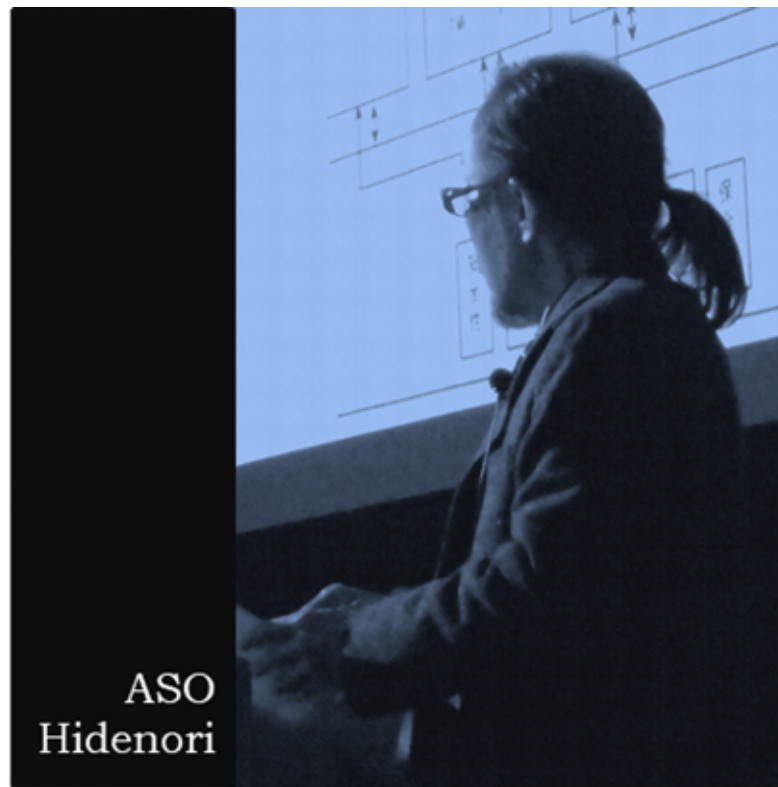
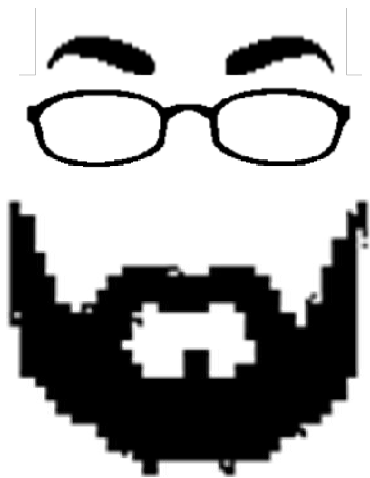
その意味は、問題が生じたら何とかして解決する。という受け身型から、あるべき維持可能な社会を積極的に構築しようとする理想型追求型であるのがSDGsの特色だと思われる。

FMにおいても、市民社会としての社会課題の解決、より良い社会の構築、社会ニーズの充足を目指す。

「目標追求型イノベーション」に向け目標達成に向かう事が重要である

ご清聴ありがとうございました

本日の発表が『**未来のファリティマネジメント**』思考に繋がれば幸いです



ASO
Hidenori

東京美装興業株式会社

技術部 顧問 安藤秀徳 (アソヒデノリ)

TEL: 03-5322-2733

mail: h-aso@tokyo-biso.co.jp

Team7043 (JF3YYE)

全国アマチュア無線非常通信

ボランティア団体 メンバー

(JA1LIQ)

JARL埼玉支部 非常通信担当

JF3YYE
Team7043
SINCE 2011.03.11~

今後発生する災害を想定して、アマチュア無線を災害に備える非常通信として社会貢献する目的の団体です